

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-241627

(43)Date of publication of application : 08.09.2000

---

(51)Int.Cl.

G02B 5/30  
G08F 32/00  
G08G 61/08  
G08J 5/18  
G08J 7/00  
G02B 1/10

---

(21)Application number : 11-043168

(71)Applicant : SEKISUI CHEM CO LTD

(22)Date of filing : 22.02.1999

(72)Inventor : OKADA YASUMASA  
SAWADA TAKAHIKO  
KOBAYASHI HITOSHI

---

(54) POLARIZING PLATE PROTECTIVE FILM, MANUFACTURE THEREOF AND POLARIZING PLATE USING THE FILM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a polarizing plate protective film easy to adhere to a polarizer, a manufacturing method of the film, and a polarizing plat using the polarizing plate protective film.

SOLUTION: This polarizing plate protective film is formed of thermoplastic saturated norbornen resin, and the wetting index of at least one surface is 40 dyn/cm or more. This manufacturing method comprises the step of corona discharging at least one surface of a thermoplastic saturated nonbronen resin film. This polarizing plate has a polarizing protective film adhered to at least one surface of a polarizer.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-241627  
(P2000-241627A)

(43) 公開日 平成12年9月8日 (2000.9.8)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>		識別記号	F I	テーマコード* (参考)	
G 0 2 B	5/30		G 0 2 B 5/30	2 H 0 4 9	
C 0 8 F	32/00		C 0 8 F 32/00	2 K 0 0 9	
C 0 8 G	61/08		C 0 8 G 61/08	4 F 0 7 1	
C 0 8 J	5/18	C E R	C 0 8 J 5/18	4 F 0 7 3	
		C E Z		4 J 0 3 2	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平11-43168

(22) 出願日 平成11年2月22日 (1999.2.22)

(71) 出願人 000002174  
積水化学工業株式会社  
大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72) 発明者 岡田 安正  
京都市南区上鳥羽上調子町2-2 積水化学工業株式会社内

(72) 発明者 澤田 貴彦  
京都市南区上鳥羽上調子町2-2 積水化学工業株式会社内

(72) 発明者 小林 仁  
大阪市北区西天満2-4-4 積水化学工業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 偏光板保護フィルム、その製造方法及びそれを用いた偏光板

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、偏光子と容易に接着することができ、この偏光板保護フィルムを用いた偏光板を提供する。

【解決手段】 熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂よりなり、少なくともその一表面のぬれ指数が40ダイン/cm以上であることを特徴とする偏光板保護フィルム、熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂フィルムの少なくとも一表面をコロナ放電処理することを特徴とする偏光板保護フィルムの製造方法及び偏光子の少なくとも一面に、偏光板保護フィルムが接着されていることを特徴とする偏光板。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂よりなり、少なくともその一表面のぬれ指数が40ダイン/cm以上であることを特徴とする偏光板保護フィルム。

【請求項2】 熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂フィルムの少なくとも一表面をコロナ放電処理することを特徴とする請求項1記載の偏光板保護フィルムの製造方法。

【請求項3】 偏光子の少なくとも一面に、請求項1記載の偏光板保護フィルムが接着されていることを特徴とする偏光板。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、偏光板保護フィルム、その製造方法及びそれを用いた偏光板に関する。

【0002】

【従来の技術】 液晶ディスプレイ等に用いられる偏光板は、一般に偏光子の両面に保護フィルムが積層されて形成されている。偏光子としては沃素又は二色性染料が吸着された延伸ポリビニルアルコールフィルムが使用され、保護フィルムとしてはトリアセチルセルロースフィルムが使用されている。

【0003】 しかしながら、トリアセチルセルロースフィルムは耐熱性及び耐湿性が充分でなく、高温下若しくは高温下で使用すると、偏光子とトリアセチルセルロースフィルムが剥離したり、トリアセチルセルロースが加水分解して透明性が低下し偏光板性能が低下したり、偏光子の偏光度が低下するという欠点があった。従って、液晶ディスプレイに用いた場合にも、短期間で画質が低下するという欠点があった。

【0004】 この対策として、保護フィルムとして熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂を使用することが提案されている（例えば、特開平8-5836号公報）。しかし、熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂は接着性が乏しく、偏光子との接着が困難なため、特開平5-212828号公報には、偏光子と熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂シートをアクリル系粘着剤層を介して積層し、加熱圧着して接着する方法が提案されている。

【0005】 しかしながら、上記接着方法では、フィルム全体に均一に加熱加圧する必要があり、設備が高価になり、且つ生産効率が悪く、得られた偏光板は加熱圧着されるので偏光子が退色し偏光機能が低下し、更に、加熱加圧の際の加熱温度や圧力がばらつくときと接着むらとなって偏光性能が低下するという欠点があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 本発明の目的は、上記欠点に鑑み、偏光子と容易に接着することができる偏光板保護フィルム、このフィルムの製造方法及びこの偏光板保護フィルムを用いた偏光板を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 請求項1記載の偏光板保

護フィルムは、熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂よりなり、少なくともその一表面のぬれ指数が40ダイン/cm以上であることを特徴とする。

【0008】 請求項2記載の偏光板保護フィルムの製造方法は、熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂フィルムの少なくとも一表面をコロナ放電処理することを特徴とする。

【0009】 請求項3記載の偏光板は、偏光子の少なくとも一面に、請求項1記載の偏光板保護フィルムが接着されていることを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】 上記熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂としては、従来公知の熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂が好適に使用され、例えば、ノルボルネン系モノマーの開環重合体の水素添加物、ノルボルネン系モノマーの付加型重合体、ノルボルネン系モノマーとオレフィン系モノマーの付加型重合体、これら重合体の変性物等が挙げられる。

【0011】 上記ノルボルネン系モノマーとしては、例えば、5-メチル-2-ノルボルネン、5-エチル-2-ノルボルネン、5-ブチル-2-ノルボルネン、5-エチリデン-2-ノルボルネン、5-メトキシカルボニル-2-ノルボルネン、5-ジメチル-2-ノルボルネン、5-シアノ-2-ノルボルネン、5-メチル-5-メトキシカルボニル-2-ノルボルネン、5-フェニル-5-メチル-2-ノルボルネン、5-フェニル-5-メチル-2-ノルボルネン、6-メチル-1, 4:5, 8-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、6-エチル-1, 4:5, 8-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、6-エチル-1, 4:5, 8-エチリデン-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、6-クロロ-1, 4:5, 8-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、6-シアノ-1, 4:5, 8-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、6-ピリジル-1, 4:5, 8-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、6-メトキシカルボニル-1, 4:5, 8-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 6, 7, 8, 8a-オクタヒドロナフタレン、1, 4-ジメタノー-1, 4, 4a, 5, 8, 8a, 9a-オクタヒドロフルオレン、5, 8-メタノー-1, 2, 3, 4, 4a, 5, 8, 8a-オクタヒドロ-2, 3-シクロペンタジエノナフタレン、4, 9:5, 8-ジメタノー-3a, 4, 4a, 5, 8, 8a, 9, 9a-オクタヒドロ-1H-ベンゾインデン、4, 11:5, 10:6, 9-トリメタノー-3a, 4, 4a, 5, 5a, 6, 9, 9a, 10, 10a, 11, 11a-ドデカヒドロ-1H-シクロペンタアントラセン等が挙げられる。

【0012】上記熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂の数平均分子量は、小さくなると耐湿性が低下し、大きくなるとフィルム成形性が低下するので、トルエン溶媒によるゲル・パーミュエーション・クロマトグラフで測定して、2万5千～10万が好ましく、より好ましくは3万～8万である。

【0013】上記熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂としては、日本ゼオン社より商品名「ZEONOR」、「ZEONEX」、ジェイエスアール社より商品名「ARTON」として上市されている。

【0014】請求項1記載の偏光板保護フィルムは、上記熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂よりなるが、その製造方法は公知の任意の方法が採用されてよく、例えば、溶液流延法、熔融成形法等が挙げられ、溶液流延法が好ましい。

【0015】溶液流延法で製膜するには、まず、例えば、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、クロロベンゼン、トリエチルベンゼン、ジエチルベンゼン、イソプロピルベンゼン等の高沸点溶媒又はこれら高沸点溶媒とシクロヘキサン、ベンゼン、テトラヒドロフラン、ヘキサン、オクタン等の低沸点溶媒の混合溶媒に、上記熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂を好ましくは5～60重量%溶解して樹脂溶液を得る。

【0016】次に、得られた樹脂溶液をバーコーター、ドクターナイフ、メイアパー、ロール、Tダイ等を用いて、ポリエチレンテレフタレートなどの耐熱性フィルム、スチールベルト、金属箔等上に流延し、加熱乾燥する。

【0017】上記偏光板保護フィルムには、フィルムの耐熱性、耐紫外線性、平滑性等を向上させるために、フェノール系、リン系などの老化防止剤、フェノール系などの熱劣化防止剤、アミン系などの帯電防止剤、脂肪族アルコールのエステル、多価アルコールの部分エステルなどの滑剤、ベンゾフェノン系、ベンゾトリアゾール系などの紫外線吸収剤等が添加されても良い。

【0018】上記偏光板保護フィルムの厚さは、薄くなると強度が低下し、厚くなると透明性が低下したり、複屈折率が向上するので、5～500 $\mu\text{m}$ が好ましく、より好ましくは10～150 $\mu\text{m}$ であり、更に好ましくは15～100 $\mu\text{m}$ である。

【0019】上記偏光板保護フィルムのぬれ指数は、小さくなると接着剤で偏光子と接着しにくくなるので、40ダイン/cm以上必要であり、好ましくは50ダイン/cm以上である。尚、ぬれ指数とは、Zismanによる臨界表面張力を意味し、JIS K6768に基づき標準ぬれ試薬で測定される。

【0020】偏光板保護フィルムのぬれ指数を40ダイン/cm以上にする方法としては、従来公知の任意の方法が採用されてよく、例えば、接着剤分子と反応しうる官能基を有するモノマー若しくはポリマーをフィルム表

面にグラフトする方法、接着剤との相溶性よいモノマー若しくはポリマーをフィルム表面にコーティングする方法、カップリング剤処理法、酸化力の強い薬品処理法、表面層を除去する薬品処理法、表面粗化手段としての薬品処理法、表面層を強化するCASING処理法などの化学的処理方法、グロー放電処理、コロナ放電処理、プラズマジェット処理、エスパッタ処理などの物理的処理方法等が挙げられる。

【0021】なかでもコロナ放電処理は、連続処理性、生産性、操作性、クリーン性等が優れ、設備が安価でフィルムを均一に処理できるので好ましい。コロナ処理条件は、弱くなるとぬれ指数が向上せず、強くなると表面が荒れたりフィルムが破れたりするので、10～300W/m<sup>2</sup>/minが好ましい。

【0022】請求項3記載の偏光板は、偏光子の少なくとも一面に、請求項1記載の偏光板保護フィルムが、そのぬれ指数が40ダイン/cm以上である表面が偏光子に接するように接着されているが、偏光板の耐熱性、耐湿性等を向上させるためには、偏光子の両面に偏光板保護フィルムが接着されているのが好ましい。

【0023】偏光子と偏光板保護フィルムとの接着は、偏光板保護フィルムの表面のぬれ指数が40ダイン/cm以上になれているので、従来公知の(粘)接着剤で容易に接着される。好ましい(粘)接着剤としては、例えば、ポリウレタン系、ポリエステル系、ポリアクリル系等の接着剤やアクリル系、シリコン系、ゴム系等の粘着剤が挙げられる。尚、偏光子の偏光機能が低下しない条件で加熱圧着してもよいことはいうまでもなく、その場合は、ゆるやかな加熱圧着条件で接着することができ

る。

【0024】  
【実施例】以下に本発明を実施例により具体的に説明するが、本発明は実施例に限定されるものではない。

【0025】実施例1

熱可塑性飽和ノルボルネン樹脂(日本ゼオン社製、ZEONOR1600R)を一軸押出機に供給し、275～290℃で押し出して厚さ60 $\mu\text{m}$ の熱可塑性飽和ノルボルネン樹脂フィルムを得た。次いで、40W/m<sup>2</sup>/minの条件でコロナ放電処理を行い偏光板保護フィルムを得た。

【0026】ポリエステルポリオール溶液(東洋モートン社製、TM-593)100重量部とイソシアネート系硬化剤溶液(東洋モートン社製、CAT-56)18重量部を混合し、偏光板保護フィルムのコロナ放電処理面に塗布、乾燥し、厚さ3 $\mu\text{m}$ の接着剤層が積層された偏光板保護フィルムを得た。

【0027】厚さ75 $\mu\text{m}$ の、酸化度99%ポリビニルアルコールフィルムを縦一軸に5倍延伸を行い、緊張状態を保持したまま沃素0.5重量%と沃化カリウム5.0重量%を含有する水溶液に浸漬し、二色性色素を吸着

させた。次いで、ほう酸10重量%と沃化カリウム10.0重量%を含有する50℃の水溶液で5分間架橋処理を行い偏光子を得た。

【0028】偏光子の両面に偏光板保護フィルムを接着剤層が接するように積層し、常温で5Kgのロールを一往復することにより接着して偏光板を得た。

【0029】比較例1

実施例1で得られた熱可塑性飽和ノルボルネン樹脂フィルムの一面に、実施例1で行ったと同様にして接着剤層を積層し、実施例1で行ったと同様にして偏光板を得た。

【0030】比較例2

偏光板保護フィルムと偏光子を90℃で2分間加熱した後、積層し、5Kgのロールで一往復して圧着した以外は実施例1で行ったと同様にして偏光板を得た。

【0031】得られた偏光板保護フィルム及び偏光板の物性を以下のようにして測定し、結果を表1に示した。

(1) ぬれ指数 JIS K 6768に準拠し、標準ぬれ試薬を用いて測定した。

【0032】(2) 偏光度 JIS K 7105に準拠し、全光線透過率を測定し、下記式により偏光度を求めた。

$$\text{偏光度 (\%)} = \left[ (Y_0 - Y_{90}) / (Y_0 + Y_{90}) \right] \times 100$$

式中、 $Y_0$ は2枚の偏光板の平行軸を平行に揃えた際の全光線透過率であり、 $Y_{90}$ は2枚の偏光板の平行軸を直交させた際の全光線透過率である。

【0033】(3) 接着性 目視により、偏光子と保護フィルムの剥がれ状態を観察し以下の通り評価した。

○ 剥がれなし

△ 手で曲げたり、剥がそうとすると剥ぐことができる

× なにもしなくても剥がれている

【0034】尚、高温試験は偏光板を80℃の乾燥機に

700時間保持した。又、高温高湿試験は偏光板を60℃、90%RHの乾燥機に700時間保持した。

【0035】

【表1】

		実施例1	比較例1	比較例2
ぬれ指数 (ダイン/cm)		56	34	34
偏光度 (%)	接着直後	99.5	99.4	60.2
	高温試験	98.7	80.2	58.2
	高温高湿試験	97.7	70.2	55.1
接着性	接着直後	○	○	○
	高温試験	○	△	○
	高温高湿試験	○	×	○

【0036】

【発明の効果】請求項1記載の偏光板保護フィルムは、熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂よりなり、少なくともその一面のぬれ指数が40ダイン/cm以上であるから、耐熱性及び耐湿性が優れていると共に偏光子との接着性が優れている。

【0037】請求項2記載の偏光板保護フィルムの製造方法は、熱可塑性飽和ノルボルネン系樹脂フィルムの少なくとも一面をコロナ放電処理するのであるから、安価にフィルム表面を容易かつ均一に親水性処理することができる。

【0038】請求項3記載の偏光板は偏光子の少なくとも一面に請求項1記載の偏光板保護フィルムが接着されているものなので、加熱することなく任意の(粘)接着剤で容易かつ連続的に生産性よく接着することができ、従って、偏光板の偏光子が褪色して偏光機能が低下したり、接着の際に偏光機能が低下することがなく、液晶ディスプレイ等において好適に使用できる。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

C08J 7/00

G02B 1/10

識別記号

303

F I

C08J 7/00

G02B 1/10

テマコード (参考)

303 4J100

Z

Fターム(参考) 2H049 BA02 BB13 BB22 BB52 BC01  
BC09  
2K009 AA00 BB22 CG21 DD02 DD17  
4F071 AA39 AA69 AA80 AF53 AG17  
AH12 BB02 BC01  
4F073 AA01 BA34 CA21 EA01 EA62  
EA65 GA11 HA12  
4J032 CA34 CA35 CA36 CA38 CA43  
CA45 CA46 CB01 CB12 CF01  
CF05 CG02 CG08  
4J100 AR09P AR11P AS15P BA20P  
BA40P BB01P BC43P CA01  
DA36